



取りはずされて再利用されるバンパーを持つ、永田プロダクツの永田野村社長と自動車リサイクル博士

未来の地球のために!

# 進め! くるまのリサイクル

## 第1部 使用済みになった車のゆくえ

### ① 解体編

今回から6回にわたり、自動車リサイクル博士が車に関するさまざまな現場をたずね、リサイクルへの取り組みを紹介していきます。第1回は「解体編」。人や荷物を運ぶ役目を終えた使用済みの車が運ばれてきた解体工場では、どんな処理が行われているのでしょうか。博士と一緒に見ていきましょう。

きちんと解体処理し

車のほとんどをリサイクル!



# 使える部品を再利用!

使用済みの車をきちんと処理!

このため、使用済みの車が最初に運ばれてくるのが「解体工場」です。今回たずねた「永田プロダクツ」(山形県酒田市)でも、使用済みの車の適切な事前処理や、使える部品を取りはずして再利用する解体作業などで、車のリサイクルに大きく役立っています。

こちらにおうかがいしました!

## ステップ① 正しく「事前処理」



▲ガソリンの抜き取りは車の下に開けた穴から

液体の抜き取り  
作業中の火災を防止!

解体工場の中では、火災が使われているエアバッグの処理工程があるなど、使用済みの車にガソリンが入ったままだと危険です。そこで、車の下からタンクに

穴を開けてガソリンを抜き取ります。集めたガソリンは地下タンクに貯めて会社で使う車の燃料などに再利用しています。

エアバッグ処理  
ふくらませて作業を安全に

エアバッグは、事故などで車がしよげきを受けるとすぐにふくらんで乗っている人を守ってくれます。でも、工場で作業中などに何かのきっかけでふくらんではたいへんです。そこで、事前にふ



くらませて、あとの作業が安全に行えるようにしています。実際のエアバッグの処理では、作業をする人の安全のため車にカバーをかけ、電気を通して「ボン!」と大きな音とともに瞬間でふくらませたあと、次の解体の工程に進みます。



▲運転席も助手席も一緒に「ボン!」

フロン回収  
抜き取ってストップ温暖化



カーエアコンに使われているフロンガスも、きちんと回収処理しないとオゾン層の破かいや地球温暖化につながるため、正しく処理することが法律で決められています。その処理費用にも車を買った人が「リサイクル料金」として支払ったお金が使われています。

の車にホースをつなぎ、その一台一台からガスボンベにフロンガスを回収し、自動車メーカーなどで高温で破かい処理し、そのあと無害化されています。



▲一台ずつついでにフロンガスを回収

## ステップ② 大切に「再利用」

部品の再利用

まだ使える部品を取りはずして管理

使用済みの車は、まずバンパーやドア、ライトなどの状態がしっかりチェックされます。そのうえで、まだ使える部品は「いいね!」に取りはずされ、きれいに洗ってから商品として大切に管理されます。当日、工場内を案内してくださった石黒さんは、「部品を再利用すれば、一から新しい部品を作るよりも、資源をムダにしないため環境にやさしく、また、部品交換が必要なのは費用を安くすることができると話してくれました。



▲ドアやバンパー、タイヤ、ミラー、ライトなど、再利用できる部品はたくさん!



▲ピカピカになって保管・管理されているドア

保管庫にスラリー。  
注文を待つ部品たち  
ここには60000~70000点の再利用部品が保管・管理され、注文があればすぐに発送できます。

ステップ③ どんどん「解体」  
部品の分別  
巨大なニブラが大活躍



▲このニブラは電気で動くため、ガスを出さず、音が小さいのも特長!

## 博士のまとめ

再利用率で資源を生かしてるんだね。  
解体の現場では、エアバッグやフロンガスが正しく処理されたあと、まだ使える部品を取りはずしたり、素材ごとに部品を分別したりすることで、どんどん資源が生かされているんだね。こうしたきめ細かなリサイクルの仕組みは、世界から注目されているよ。

さあ次回は「破砕」の現場をたずねよう!

自動車リサイクルをもっとわくわく学べるよ!  
公益財団法人 自動車リサイクル促進センター  
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC  
https://www.jarc.or.jp

社名: 永田プロダクツ  
住所: 山形県酒田市  
車のリサイクルを中心に事業を行い、まだ使える部品は日本国内だけでなく、海外にも輸出しています  
http://www.nagata-p.co.jp

